

刊夕日四五月

常警每日新聞

定価 一月五拾五圓 三月一拾五圓 半年二拾五圓 一年四拾五圓
 廣告料 五圓以上 二行五圓 三行七圓 四行九圓 五行一拾圓
 日曜 祭日の日 休刊
 印刷所 常警印刷部 電話 六二〇〇
 發行所 常警印刷部 電話 六二〇〇
 印刷部 常警印刷部 電話 六二〇〇

新貨幣論 (一)

金のいらぬ極樂國土建設案

神 木 鷗 津

三、矛盾の具体的事實
 金本位制の矛盾は一二にして止まらぬ。先づ第一に『此券引換に金貨五圓相渡可申候』と明記捺印してあるにも拘はらず、日本銀行が持参するとも交換してくれない。

第二に、金二枚が五圓に相當すると法律に定めてあるが、昨今の市中相場は九圓を上下し、而かも日々變動して已まない。

第三に、準備正貨たる地下室死蔵の黄金は一錢一厘増殖しないのに、これを代表する紙幣は寸分の休みなく金利を生む故に、富の計算の稱呼は増大し従つて紙幣價值は下落して物價は騰貴するばかりである。

第四に、金輸出を禁ずる時に、國家經濟は孤立して産業は閉塞状態となり、財界は萎縮不振に陥る解禁すれば金は海外に逃避して準備正貨は缺乏の危険に類する。何れにしても完全な制度とは言へない。第五に、金そのものは、生活の必需品でなくこれを死

藏貯蓄するとも、人間生活に何の役にも立たぬ。

第六に、吾人が貨幣を所持するのは、決して黄金それ自体を求めてゐるのではない、金貨はなくとも、交換經濟生活に支障なく、生き得ば足りるのである。

然るに生活必需品として、要求してゐるのではないところの金に縛られて、自由を得ないことは、愚かなる時代おくれの、矛盾といはざるを得ない。

四、社會不安の源泉、世界各國は何れも金を貨幣の基礎物を脱いて上るときは、玄關の中央をさげ、外へ向けて揃へておく。

ノート

本として紙幣を發行してゐる。その紙幣の發行は、多くして金の準備は少ないから各國は争ふて、金の吸収に努めざるを得ない。斯くて金の需要が、莫大となるに隨ふて、金は騰貴せざるを得ないのである。

二明日の献立

【朝】すまし汁―春菊―乾えび。
 【晝】酢のもの―ゆに豚―竹の子―三杯酢。
 【晚】白みそ汁―しじみ―さやえんどう―あられ豆腐。

不足に苦しむのは賢明な制度ではない。また一般商品の價格は産金量の多少によつて決定される。金が多ければ物價は上り金が少なければ、物價は下る。金も毎年發掘されてはゐるが、人文の向上と、機械工業の發達につれて生産は全く恐慌的過剰を示してゐる。

これは相對的には、金の減少を意味し、結果は物價の騰落となる。然るを正價なき紙幣の増發によりて、物價を釣り上げんとする、インフレ政策はますます紙幣と金との間に大きな開きを生ぜしめ、國家の經濟的基礎は爲めに薄弱とならざるを得ない。若しまた將來自然的或ひは偶然乃至は科學的發明によ

つて多量の産金を見るの日がありとすれば、地上の經濟生活は直ちに動搖する。斯くて金は過剰であつても不安の癆である。

外科專門 花柳病專門

木村外科醫院

入院自炊の便あり
 平町五丁目橋際 電話三〇九番

旭硝子株式會社製品 板ガラス

旭硝子株式會社製品
 赤菱印
 菓 子 壘
 硝 子 食 器
 其他 各種

松崎硝子製作所

平町新川町(電話一四二番)
 支工場 仙臺市榮町(電話五九七番)

平新川町十九 外産婦人科 木村病院

電話一六四番
 院長 木村寅次郎
 醫學士 内 木 宗 八

中村齒科醫院

平町 鍛 町 七

貸切の●●●

御用命は!!!

獅子吼(四四九)ノ勢デ
 マツサキ

眞先ニ……………(マツサキ)

三九ニタクシーへ!!!

木炭代用この上のない經濟の

徳用な 豆 炭

壹袋正五貫目入金 八十錢也
 御注文次第御届ケ申シマス

三丁目(電話六六三番)
 磐崎屋酒店

一丁目(電話五九六番)
 菅本武雄商店

白銀町(電話二九九番)
 水野氷店

六丁目
 矢吹石炭商店

平驛前(電話三七番)

阿部石炭商店

◎特約店募集致シマス

改稱御知らせ

新藤屋(支店)改め
 鐵道省 御指定
 遞信省 御指定

旅館 甲 陽 館

店主 武田 コウ
 平町驛前電話一四八番

繭價好望で

俄に勢付き

掃立數が増加

繭の出荷前年と大差ない

平蠶業取締支所では愈々春蠶掃立期も切迫したので管内養蠶家を指導すべく種々計画中であるが去月下旬頃迄は前途氣迷ひから掃立數は五分減を豫想されて居たが最近では糸價の騰貴が確實性を帯びたので俄に掃立を増加する向多く前年と大差なき出荷を見る模様であるが掃立期は来る十日より十五六日頃迄であらうと

梨栽培の

講演會を

平窪作業場に

石城郡農會では明五日午前九時より過般新設された平窪村果樹共同作業場に於いて梨栽培講演會を行ふが講師は東京農業大學教授立花千秋氏であると

卒業兒童の

紹介成績が悪い

平職業紹介所去年中の成績は求人が男五十九、女十一計七十名、求職者は男七十一、女十五、計八十六名で就職した者は男五十一、女十、計六十一名で前月に比較すると求人五十三名、求職二十八名の減、前年同期とは求人十九名、求職五十五名の減少を見たが原因は四月の小學卒業兒童紹介成績が思はしくなかつた爲めである

體育競技の

本年豫定事業

體育協會支部が協議

本縣體育協會石城支部にては昨日午前十時より平第一小學校に於て役員會を開き本年度の事業に就いて協議した結果各種大會の開催日を左の如く決定した

講習會 八月三十日教員庭球大會 十月二十九日兒童競技大會 十一月九日兒童ドッチボール大會 十二月三日教員バスケットボール

體操巡回指導

既報の如く平窪作業場に於て開かれたる體操巡回指導講習會には同校二ノ四木村訓導及び五ノ一野原訓導が各々研究教授を行ふと

平町各教員が

野球リーグ戦

郡下野球大會を控へて

メンバーが決定

来る七月九日石城郡下教員野球大會が體育協會石城支部主催の下に開催されるので平町各學校教員は今月下旬野球リーグ戦を催すべく目下準備中であるが各校のメンバーは左の如くである

投捕 一三遊右中左

尾口村口谷村平澤森

野澤川澤田田田長原

内岐光長中妻村島川

藤上田崎榮政正竹田

手邊原本本野田藤谷

掃立豫想

平町の調査

平町役場の調査に依る本年の春蠶掃立豫想數は白繭が五百八十一グラムで昨年の三百八十九グラムより百九十二グラムを増し黄繭も九十九グラムで昨年度三十三グラムよりは六十グラムの増加を見て居る尚掃立期は七日頃より開始され十日が最盛、十四日頃が最終と豫想されて居ると

果實包装

共同購入

好間で協議

石城郡好間村果樹組合總會は十日午前九時より村役場に於て開會包装材料品の共同購入等に就いて協議を行ふと

中の作漁港

面目を一新

石城郡江名町字中ノ作漁港修築工事は本年度豫算十一萬圓を以つて近く港内九千五百米に亘る浚渫工事及び二百九十米の防波堤増築を實施する豫定であるが明年度は三千七百米の海面埋立

及び荷揚場の新設等を爲し全工事を終了するが竣功後は七十噸漁船卅餘隻を港内に碇泊せしめ小名濱、江名に次ぐ大漁港として面目を一新すると

背網の竣工を待ち

平商警中と一戦を

牛島元法政選手を迎へて

平商業學校野球部にては商友會より開校二十週年記念として寄贈されるバックネットも愈々来る十一日頃竣工するので十二日ネット開きとして警中野球部と一戦を交へる外元法政大學名外野牛島秀之助氏を招き十二日より五日間コーチを受け

研古豫選

二名決定の所

平町古銀治研町にては昨夜天理教會で町議候補豫選會を開き二名を選む事となり廿五票吉村安治郎、廿一票大谷要次郎、十七票の永山富廣の三氏の順位にて吉村大谷の兩氏に交渉を開始すべく委員を挙げた處俄に永山氏も出馬の意志を洩らし居る模様で同區は混戦を免れまいと

關西修學旅行

警城中學校第四學年二百餘名は来る五月八日平發午前五時三十分にて關西方面の修學旅行に出發するが日程は左の如くである

△印刷見習 十六才 尋卒
△仕着小遣(平町某)
△染物見習 十六才 尋卒
△仕着小遣(平町某)
△下駄職見習 十六才 尋卒
△仕着小遣(平町某)
△回職を求める方

△小使 五十三才 中卒
△給料面談(植田町某)
△雜婦 五十才 尋三修
△給料面談(平町某)
△女中 二十才 高卒 給料面談(大浦村某)
△自動車助手 十六才 高卒 給料面談(平町某)
△自動車運轉手 廿八才 高卒 給料面談(山形縣某)

平映畫界

△平、錦、トキー漫畫

「ミツキーマウス蕃地征服」日活現代劇 市川春代、島津元主演「港の抒情詩」日活時代劇 大谷日出夫、高津愛子主演「霧行燈」松竹現代劇 高田浩吉、及川道子、岡田嘉子主演「女性の切札」世界館 新興時代劇 木村正二郎、望月禮子主演「江戸俠艶録」新興時代劇 雲井龍之助、木下双葉、五十鈴桂子主演「夜明けの女」新興現代劇 森靜子、松本泰輔、水原玲子主演「渦巻」

美味! 芳醇! 宗正らひた

山崎合名會社 電話一〇番

△回職を求める方
△小使 五十三才 中卒
△給料面談(植田町某)
△雜婦 五十才 尋三修
△給料面談(平町某)
△女中 二十才 高卒 給料面談(大浦村某)
△自動車助手 十六才 高卒 給料面談(平町某)
△自動車運轉手 廿八才 高卒 給料面談(山形縣某)

價米

今年の今頃より 二十六錢餘安

平穀物検査所管内に於ける最近の米價は四等米一俵に付き八圓十五錢を上下し昨年同期の八圓四十錢に比較すると二十六錢餘の安値を見て居る

益裁陳列即賣 石城盆裁協會では来る七八、九の三日間泉村驛前に陳列即賣會を開くが一般からの出品を歓迎すると

道内千代 石井ミネ 佐藤ヒイ 同マサ 藁谷トキ 猪狩イク 緑川スエ 志田フミノ 寒河江キエ 輕部ハル 坂本キミ 澁谷キミノ 新妻サタ 大木ウメ 小野キヨ 魚住チユ 飛田フデヨ 鈴木ツエ 飯塚テツ 鈴木米子 鈴木わくり 油座伸子 丹野テル 松本セイ

開校記念の 墨染の櫻が遠慮

グラウンドの隅に

磐城高等女學校にては来る七月三十日全縣下高等女學校の陸上及び庭球大會が同校グラウンドで開催されるので目下グラウンドの手入や其他準備中であるが永年開校記念樹としてグラウンドの中央に來る春毎に異彩を放つて居た墨染の櫻がどうしても邪魔になるとあつてグラウンド西南の隅に移植される事になつた

佐藤シヅエ 佐川澄江 鈴木チエ 菅野ヨシ 伊藤キミ 鈴木ナツ 村田セイ 竹内スニ 山口八千代 伊藤モト 平山アヤ 濱崎ハマヨ 篠崎キヨ 金成フミ 後藤ミネ 佐藤ウメノ 鈴木ハルノ

青年團總會 八日に延期 平町青年團總會は明日午後一時よりマルトモホールに於て開く筈の處都合に依り來る八日に延期すると

別人らしいと 屍体を掘り起し

再検視の結果判る

一丁目石城産科婦看護婦學校及び南町平看護婦產婆學校卒業生にして過般福島市に於て施行された看護婦試験に合格したるものは左の如くである

- 峯口アヤオ 赤津順子
- 青柳ササイ 小松テロヨ
- 物江ハツイ 佐藤美順子
- 草野テロヨ 羽下キヨイ

既報去る一日午後六時頃石城郡好間村字川中子地内夏井川畔より発見された婦人の變死體は平署で検視の上紺屋町清水屋旅館の元女中荒井ヨネ(三)との鑑定で假埋葬に附したが右は飯野村大字矢川瀬字中田居住農山田松藏妹キイ(三九)らしいと

家人からの届出に接し今朝係官が家人を同道して再検視の結果前記キイに間違ひないと屍體を引取つたがキイも多少精神に異常があり無斷家出して前記箇所を通行中轉落溺死したものであり

明日の天気

今晩も明日も北西の風晴れ

今晚の部

- 後六、〇〇 子供の時間
- お話「武者人形」有坂與太郎
- 後七、三〇 講演「國際聯盟會議の印象」アルビンイジョンソン 通譯長谷川進一
- 後八、〇〇 浪花節 東家右樂遊
- 後八、三〇 哥澤 哥澤芝
- 金社中
- 後八、五〇 連續ラジオドラマ「ジャンゲアルジャ」坂田恭助外
- 後九、三〇 時報 ニュー

農繁期前の 村祭り

石城郡下本月中の各村祭典は左記の如くである
(五月六日)飯野佐麻久嶺神社(八日)泉諏訪神社
(五月六日)湯本温泉神社(九日)泉鹿島神社 草野愛宕神社
神谷立錫鹿島神社(十四日)夏井大國魂神社
夏井掃除延期 石城郡夏井村春期衛生掃除は昨日行はれる筈であつたが降雨の爲め來る九日に延期された

ツルべ取る花 學校からの贈り物

平第二校の情操教育

平第二小學校にては情操教育の一端として校庭の一部に園藝壇を作り先崎訓導が主となり朝顔の種廿種を播いて栽培各家庭に苗を一本宛を配付し児童に培養せしめる事になつたが開花期には品評會を催し優良品に賞状及び賞品を授與すると

一年一四 二年六 三年五 四年四 五年五 六年三 高等科六

低學年ほど 死亡が多い

平第二小學校にては此程過去七年間に於ける児童の死亡數を調査した處に依ると

明日の部

- 前二、三〇 家庭講座「乳幼児のかわりやすき疾患とその豫防」定方龍代
- 後三、〇〇 俗曲「吹き寄せ」三升家三喜之助 春風枝左松
- 後二、〇〇 家庭大學講座「現代の經濟生活の概観」終田邊忠男
- 後二、二〇 東京大學野球聯盟リーグ戦(立大對早)

出さぬ事

一、髪は二つに分け又は前に出さぬ事

裁判所だより

△栃木縣那須郡生れ目下住居不定無職神長廣(三)に係る住居侵入窃盜及び恐喝事件は本日平區裁判所に於て竹内判事係り小林檢事立會の下に公判開廷され事實取調の上檢事より懲役一年三ヶ月言渡されたが判事より即決求通じられたが事件の内容は昨年九月二十二日栃木縣那須郡千本松町煙草菓子小賣商薄井アキ方に忍び入り現金三圓五十錢及び煙草等を窃取した揚句同人に對し銀紙を貼つた竹べらで恐喝し現金四圓を奪つたが此外去月十五日午後一時頃石城郡泉村大字瀧尻植田水電散宿所軒下より銅線約五貫匁價格十六圓七十錢を窃取したるものであると△双葉郡上岡村大字本岡字山神前十九番地農横田清(三)が同村渡邊弘に暴行を爲し過般平區裁判所に於て

看護婦急派 の求めに應 じます

平町南町 平看護婦會 電話三〇七番

幕末剣士

【禁轉載上演及映畫】

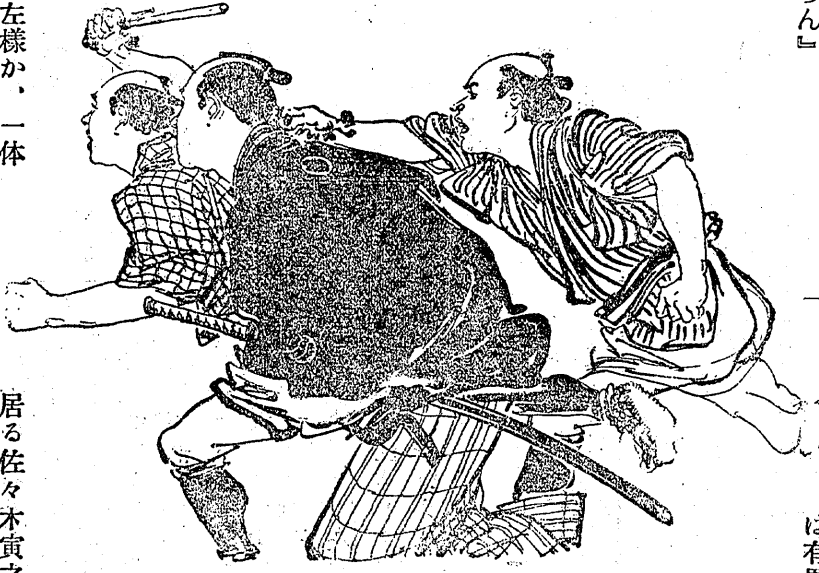
悟道軒 圓玉演
近藤 紫雲畫

第三百二十九號

佐々木見山

少年は上田の馬
佐々木見山に少年は、刀を引抜いて、佐々木は背打少年は刀を揮つて暴れまはる。この勢ひに驚いた中着切、ワーツと聲を揚げて逃げると踏込んだ見山ビシッリと後から打倒す、其處を少年が飛びかゝつて斬る。處へ觀世音の方から二人の手先を連れて駈けて来たは此邊見廻りの町奉行部下の同心

同「鎮まれーッ」
と聲をかける、巾着切は同心を見ると押へられては大變と蜘蛛の子を散した様に四方に逃げて行く、それを見送る佐々木
佐「モウ宜い、イヤ少年逃ぐるを追ふて斬るは卑怯だ、もう是にて止めて置くが宜い」
少「有難い事でございます私に初めて人を斬りましたが、二ツにはわれぬ物でございませぬ」
佐「西瓜を斬ると間違ひ人は却々真ツ二ツには斬れぬものだ」
と云つて笑つてゐる處へかけ寄つた同心
同「怪俄はありませんか」
佐「イヤ是は町方見廻りの



お役人であるか、幸に怪俄も致しませぬ、少年も無事の様でござる、巾着切には大分傷を負ふた者もあるが是れは逃げ去つたことゝて何人程怪俄をしたかそれは分らん」

それを賊共は怨み拙者に喧嘩を賣りかけて、據ろなく刀を引抜いたが斬り捨てるも大人氣ないと存じて背にて打倒したことゝて頭にこぶを拵へた者はあらうが命にかゝはる程の深傷を負ふた者もあるまい」
同「それでも草が大分血に染り居るが」
佐「イヤそれは助太刀が斬つた此少年が刀の切味を試めした」
同「左様か、シテ貴方は何方の御藩士か」
佐「拙者こと是有馬邸に

たいから賊を斬らしてくれと拙者に頼む故それではお話しなすつてごらんないとかう申した」
同「栗餅を賣る口上の様でございませぬ、貴下はいづれのお方であるか」
と尋ねられて少年は
少「わたくしは細川長門守の家來、上田の馬と申します」
同「ハ、ア上田の馬、上田といふ苗字かね」
少「左様苗字でございます名は馬と申す、今日は觀世音へ參詣かたゝ遊びに來ましたが喧嘩があると聞きこれぞ幸い刀の斬れ味と腕を試めようと思つて此お方にお願ひ申して二三人斬りました、この刀はよく斬れますぞ」
同「これは恐れ入つた、なぐさみに人を斬るは宜しくない、いづれ町奉行より沙汰がござらう」
と二人の住所と姓名を再び尋ねて帳面に記し
同「先づ今日はお引取りなさい」
と云ひ捨て引き取つた、後に佐々木見山が少年に對ひ
佐「貴下は細川侯の御家來か」
少「左様にございます、細川の分家で俗に鶯細川と申し、邸は吾妻橋向ふ本所中ノ郷にございます」
佐「然うか、貴公は少年に似合ず大膽だな、多勢を相手にして少しも屈せず斬り捲くつた處はえらい、後來立派な武士になるであらう

ンテ何歳だな」
少「十七でございます」
佐「それは樂みだな、黒くなるも白くなるも是からの修養に依る、拙者は赤羽根の有馬の邸に居るから閑暇の節は些とお出でなさい、實地の役に立つ剣道のお話をいたす、今日はこれでお別れ申すであらう」
と袂を分ち茶店の中に懐へてゐる僕を連れて赤羽根の有馬邸に戻り、この事を目附まで届けて町奉行に呼ばれるかと思つてゐたが何の汰汰もない、すると十日ばかり経つての事ですが
○「先生、上田の馬と申す方がお出になりました」と門人が取りつた。

平町二丁目
三井タクシ
電話六八五番

合服とレインコート

御召替の節です……
キツト皆様の御氣に召す
1933の春の新製品を豊富に
取揃へ陳列して御座います。

新柄背廣	12.00
黒セル背廣	9.00
レインコート	9.00
バーバリ	3.20
トレンチコート	5.00

ふかや洋服店 平電 三 203

耳鼻咽喉科専門

入院 應需院
平町田町七〇番地
山内醫院
醫學士 山内亨吉
電話六九一

新發賣 志のぶ錠

男女安全豫防藥
しのぶ錠は花柳病の豫防藥たるのみならず〇〇〇〇の外コシケ、子宮、内膜炎、陰加答兒並に婦人〇部の癢痒等の治療の目的に用ひられる事で即ち〇〇〇の豫防と治療の二重奏をなします

專賣所 阿康藥舖
平古鍛冶町(電話四四番)

耳鼻咽喉科専門

氣管食道科
平南町(電話一七〇番)
大和田醫院